

第4回 県道長井古座線 八郎山トンネル技術検討委員会

議事要旨

1. 日時：令和6年 3月28日（木） 10：30～11：30（現地調査）
13：00～14：30（会議）
2. 場所：八郎山トンネル（現地調査）、串本町役場2階大会議室（会議）
3. 委員：（敬称略、出席者のみ）
 - ・大西 有三（京都大学）：委員長
 - ・砂金 伸治（東京都立大学）：委員
 - ・日下 敦（国立研究開発法人 土木研究所）：委員
 - ・中本 純次（和歌山工業高等専門学校）：委員
4. 議事要旨
 - ①現地調査にて、覆工コンクリート撤去状況（約8割撤去完了）及び、覆工コンクリート背面にある鋼アーチ支保工等の据付状況を確認した。
 - ②調査報告書（案）に関し意見交換を行い、以下の点について確認した。
 - ・まえがきとして、調査報告書の位置付け及び構成を記載すること。
 - ・施工不良の根本原因として、掘削面の管理不足及び支保工設置位置の誤りなどが考えられるため追記すること。
 - ・地山による支保工の変形については、地山の地耐力不足も原因の一つと考えられるため記載内容を検討すること。
 - ・トンネル工事の技術力は、施工管理だけでなくトンネルが造られる過程の基礎知識（掘削時の観察、計測、評価）も重要であるため追記すること。
 - ・委員からの意見を踏まえ、調査報告書の内容を精査修正し再度委員会に諮ること。